特殊教育キャリアアップフィールド
コース名：個別の指導計画（知的障害児教育）

障害児教育専修　　坂　本　　裕

1. はじめに：本コース設定にかかわって

知的障害児教育の教育実践における授業評価は，知的障害児は知的機能の障害をはじめとする多様な発達障害を示すために，その障害の状況は一人一人異なっており，授業レベルでの「個への対応」を実現して初めて，その教育効果も期待できる。そのため，目下，個別の教育支援計画や個別の指導計画等の作成とそれに基づくより確かな教育活動の実践が求められている。また，知的障害養護学校や知的障害特殊学級への就学者は近年増加傾向にあり，筆者ら(坂本ら，2003)が行った岐阜県内の障害のある幼児の保護者への実態調査では，保護者は知的障害養護学校や知的障害特殊学級への就学に際し，「専門性ある教育」を特に期待している。しかし，筆者ら(坂本ら，2002a）が行った岐阜市立障害特殊学級担任教員を対象とした実態調査では，特殊教育歴の短い教師の増加により，知的障害特殊学級としての教育課程の編成や専門性の高い指導が十分に実施できない状況にあった。

こうした状況を踏まえ，知的障害児教育における日々の教育実践が「個への対応」となるような個別指導計画の形式・内容と使用方法の検討が急務となっている学校教育の現場で牽引役である12年目を迎えた先生方へ研修コースにひとつとして，本コースを設定した。

2. 研修の実際

本コースには７名の参加者があり，その勤務先は特殊学級４名．養護学校３名であった。この中から，大学での研修だけではなく，その後に授業研究会を含めた検討会を行った中学校知的障害特殊学級主任の研修受講生を例に挙げ，研修の実際の様子を紹介したい。

(1)　研修受講生の研修内容の検討

初日の午前中は知的障害児教育における個別の指導計画の理論的，歴史的背景，わが国ならびに岐阜県の現状，今後取り組むべき課題等について，筆者が養護学校や特殊学級で行った個別の指導計画に関する研究結果も踏まえた講義を行った(坂本ら，2002b.，坂本，2002.，坂本，2003.，坂本ら，2004)。その後，各研修受講生の研修課題を確認し，検討をした。中学校知的障害特殊学級主任の研修受講生から以下のような研修目的が示された。

> 障害種別に応じた「特殊教育」から個々の教育的ニーズに応じた「特別支援教育」へと基本的な方向を転換している。つまり，今後の教育活動では，個々の児童生徒の多様な教育的ニーズをいかに把握して，自立や社会参加にむけて支援するかが重要になってくる。そのような教育活動に対応するための「個別の指導計画・評価」システムについて研修をしたい。

このような研修目的を踏まえた協議を初日午後に行い，次のような研修内容を決定した。

・個別の指導計画の書式，形式・内容と使用方法

・個別の指導計画の日々の授業への連動

(2)　研修経過

研修受講生が実際に作成した個別の指導計画（表１にその一部を示す）や学習指導案等を元にしながら，研修課題「個別の指導計画・評価」システムの検討を行った。

①　個別の指導計画の書式，形式・内容と使用方法

＜研修受講生のこれまでの実践＞

平成15年度から教育課程編成と連動したできるだけ見やすく記入しやすい個別の指導計画の作成を試み，教師と保護者とが連携して，生徒に願う姿を可能な限り共有していくことを重要な柱と考え，保護者の希望等を取り入れながら表1に示したような個別の指導計画を作成している。そして，作成した個別の指導計画は通知表として連動させた。その結果，個別の指導計画と評価が的確に連動し，より個に応じた教育活動ができた。さらに，そうした日々の教育活動の中での生徒の姿を保護者に的確に伝え，共通理解することができた。

＜担当教員の助言＞

保護者の意向を可能な限り汲み取りながら，生徒一人一人へのていねいな教育実践を展開するために作成されている。ただし，個々の生徒に細やかに対応しようとするがために個別の指導計画への記入量が莫大なものになっていないかと危惧する。また，個別の教育支援計画（個別の移行計画）の作成も見越した取組が必要ではないかと思う。

②　個別の指導計画の日々の授業への連動

個別の指導計画と日々の授業の連動状況を検討するため，授業研究会を11月下旬に行った。授業は校外学習の準備活動であったが，個別の指導計画に記載された個々の学習の状況を踏まえた授業構成や教材教具の準備がなされていた。なお，この学習成果を個別の指導計画にどう連動させ，保護者に伝えていくかは年度末に再度検討を行うこととした。

(3) 成果と今後の課題

今回の研修において，担当教員が行った助言や諸資料等を参考にし，表2に示したような個別の教育支援計画（案）が作成された。この資料は研修過程で作成したものであり，教育実践の中で実際に活用できるものであるかの検討が必要であるために(案）とした。しかし，今後更に，このような個別の教育支援計画や個別の指導計画が各学校で作成され，児童生徒一人一人へのていねいな教育実践が行われることを強く期待したい。

表1　研修受講生が作成した個別の指導計画（一部抜粋）

○中カード（平成ｘ年○学期）　　2年 ST

学習の目標	手だて	学習の様子
〔国語・英語〕		
○単語のアクセントに注意して読む。	・単語を板書し，アクセント記号で読み方を確認する。	・数回の授業でアクセントがだいたい訂正されるようになりました。忘れてしまっても怒らずに訂正できるようになり，学習がスムーズに進みます。
○生活の中の単語を書く。	・月ごとの学校行事の中の単語を取りだし，カードにして読みあうことができるようにする。	・初めての漢字はよく見て覚え，35枚中全ての単語をすぐ読めるようになりました。生活漢字の読みは，ほぼ8割正確に読めます。
○文章中の一場面において自分なら何と言うかを考える。	・仲間の意見を聞き，自分の台詞として言う活動を仕組む。	・板書を見ながら，自分だったら何というかを数種類の選択肢から選べるようになりました。言ってはいけない言葉遣いに気付き，仲間に訂正を求めることができます。
〔数学〕		
○時間いっぱい集中して学習に取り組む。	・「学習内容を短く区切る」「学習をパターン化し見通しがもてるようにする」など刺激の少ない環境を設定し情緒的な安定をはかり，集中力を高める。	問題をよく読まずにどんどん進んで行ってしまうことがしばしばあったので，細かく区切って一つずつ確認しながら取り組みました。パターン化した取り組みのうち計算問題は集中して取り組みも早く正答率も高かったです。文章問題になると場面が分からず何算にすればよいのか困っていたので，一緒に絵を描いて考えるようにしました。
○身近な長さの単位が分かり，適切な使い方ができる。単位をそろえて計算できる。	・イメージしやすいように体の部位やプールなど身近な例を使って大体の長さかつかむようにする。 ・単位の早見表を準備し，簡単な単位の変換ができるようにする。	1ｍ，1cm，1mmがだいたいどれくらいの長さなのか自分の体でつかむことができました。単位の変換は基本の表を使い，数字を替えただけの問題ならほぼできるようになりました。単位をそろえての計算も（ｍ，cm）繰り返し取り組むことで正確にできるようになりました。
○市販のものさしをつかい○○cmちょうどのものを測る。	・初めに測るものの起点をつかませ，端を合わせるように声をかける。 ・いろいろなものを測る活動を仕組む。 ・必要に応じ手を添えて一緒に測る。	どこから測ればよいのかが分かれば，ものさしを使うときずれないようにしっかり押さえ，ものさしの0のところを合わせて正確にものの長さを測ることができました。また，測るだけでなく○○cmちょうどの直線を引くこともできました。
○身近なかさの単位が分かり，適切な使い方ができる。単位をそろえて計算できる。	・単位の早見表を準備し，簡単な単位の変換ができるようにする。 ・何の単位か整理できるように，単位のグループ分け表を準備する。	重さ，かさ，長さの単位は区別してとらえ，グループ分けを行うことができました。また，重さ，かさの単位の変換は基本の表を使い一緒に前のプリントにもどりながら取り組みました。数字を替えただけの問題ならほぼできるようになってきました。
〔家庭生活学習〕		
○靴下の汚れを手洗いでしっかり落とす。	・手洗いの仕方の手本を見せる。 ・洗濯機の使い方のマニュアル表を用意する。	靴下の汚れを確認しながら，両手を使ってしっかりこすり落とすことができました。すすぎの時には，石鹸が落ちるまで何度も水洗いすることができました。
○野菜を適度な大きさに切ったり，剥いたりする。	・野菜を切った見本を用意する。 ・皮むきステップ表を用意する。	ポテトサラダ作りでは，包丁を使ってじゃがいもの皮をしっかり剥こうと努力することができました。多少表面がでこぼこになりましたが，芽や皮をしっかり取ることができました。
○仲間と協力して，畑の草を抜いたり，耕したりする。	・活動する場所を明確にする。 ・作業が終わったときは，必ず報告するようにする。	畑作業では，額に汗して，草を抜いたり，耕したりすることができました。サツマイモの苗の植え付けやマルチ掛けを仲間と協力して行うことができました。
〔社会生活学習〕		
○大まかなバステーリングの行程を考える。	・岐阜市周辺の地図や路線図を用意して，教師と一緒によりよい見学の順序を考える。	バステーリングの計画では，行ってみたい施設を自分で考えて発表することができました。また昨年度のバステーリングやこれまでの経験を生かして行程を考えました。ドリームシアターを集合場所として，どのような順番でまわっていけばよいか，まわりやすい計画を立てることができました。バステーリング当日は，いろいろな路線のバスを乗り継ぎ，車内や施設内でもマナーを守ることができました。
○バス会社や鉄道会社に電話をし，電車やバスの時刻，運賃を尋ねる。	・尋ねる内容をあらかじめメモしておく。 ・電話をかけるマニュアル表を用意する。	図書館探検の下調べでは，マニュアルを使った電話のかけ方の練習を繰り返し行い，バス会社に電話をかけて時刻や運賃を尋ねることができました。ゆっくりはっきり話すことができるようになり，尋ねたことをメモにとることができました。
○インターネットを使って，公共交通機関や公共施設について調べる。	・調べたことをメモしたり，プリントアウトしたりするように助言する。	バス会社のホームページを検索し，学校から図書館まで，図書館から自宅までのバスの時刻や運賃をスムーズに調べることができました。また，1年生に検索方法を教えることもできました。 当日は，岐阜駅前での乗り換えの際，仲間をリードして乗り場の移動を行うことができました。

表2　研修受講生が作成した個別の教育支援計画（案）

○○中学校　特殊学級　平成　年度　月　入学・転入

生徒名	男 女	生年月日	平成　年　月　日
保護者名	自宅電話番号	ー　ー	
	緊急連絡先	ー　ー　（　）	
〒　ー 住　所 通学方法			
家族構成			
生育歴・指導歴・障害・療育手帳 （出産時，乳幼児期，検診，既往症，療育施設，保育園・幼稚園，学校等）			
関係機関における支援　（医療機関，施設等）			
指　導　者			

○○中学校　特殊学級　平成＿年度　＿年　氏名＿＿＿＿＿＿

本人の得意なこと・好きなこと	保護者の願い
子どもの姿	
学習	
基本的生活習慣	
社会性 コミュニケーション	
行動面 認知面	
健康面 運動機能面	
担任の願い	
長期目標	
学習	
日常生活	
対人関係	

3. 本コースの成果と今後の課題

平成17年度までに養護学校は個別の教育支援計画の策定を終えるようになっていることもあり，本コースは12年目を迎えた教師の興味を引くものもあったようで，受講希望者が定員をオーバーするほどであった。このような中，受講していただいた先生方には，個別の指導計画に関するレベルの高い教育実践資料を提供していただき，そこに参加したものが互いに学び合うことができた。しかし，個別の指導計画は学校として作成しているものであり，その様式や記入方法を研修の中で課題となった箇所でも研修受講生の判断のみでは変更することは困難であった。次年度以降はそうした学校現場の事情も予め含めおき，知的障害のある児童生徒への「個の対応」が実現できる研修コースとしていきたい。

文献

坂本　裕・杉山　章・杉山貴子（2002a）特殊学級における知的障害児教育の現状と課題（2）．岐阜大学教育学部研究報告（人文科学），51（1），163-176.

坂本　裕・西　正道（2002b）知的障害児教育における通知表を活用した「個への対応」に関する研究（1）．岐阜大学教育学部研究報告（教育実践研究），4，119-127.

坂本　裕（2002）知的障害養護学校における「個別の指導計画」の現状に関する調査．教育目標・評価学会紀要，12，77-84.

坂本　裕（2003）知的障害児教育における通知表を活用した「個への対応」に関する検討（2）．岐阜大学教育学部研究報告（教育実践研究），5，183-190.

坂本　裕・松本和久・小石麻利子（2003）障害のある幼児の保護者の学校教育への期待に関する調査研究（1）．岐阜大学教育学部研究報告（人文科学），52（1），189-193.

坂本　裕・西　正道（2004）知的障害児教育における通知表を活用した「個への対応」に関する検討（3）．岐阜大学教育学部研究報告（教育実践研究），6，219-226.